

平成29年度 境港総合技術高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

境港総合技術高校は、平成15年に境水産高校・境港工業高校の2校と境高校家庭科学科を統合する形で開校し、現在、水産学科・工業学科・福祉学科の3学科を有する総合選択制高校である。

「友愛・創造・自律」を校訓として、地域や地元産業界に貢献できる人材の育成を目指した教育を推進している。学校の特色をいかし、進路希望、興味・関心、適性に応じて学科の枠を越え、商業や工業の専門的な分野から、水産のマリンスポーツや福祉ボランティアまで、幅広い学習を行い、生徒一人ひとりの個性の伸長を図っている。海洋練習船“若鳥丸”による海洋実習、地域とつながる土曜授業、介護福祉士資格5年連続100%合格など、専門学科を象徴する体験学習や資格取得が特徴的である。また、学科・科を越えた連携を促進し、各学科・各科の特性をいかした事業を推進し、生徒の自尊感情の醸成や社会貢献への意欲の高揚を目指している。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学習指導において、進路希望、興味・関心、適性に応じて幅広い学習ができる総合選択制の特色がいかされている。学校独自事業を中心として地元の人材を活用した学習を行い、実社会で貢献できる人材の育成がなされている。
- ② 各科の専門性をいかした連携による課題研究や発表会の開催は、科や生徒間の理解を深める役割を果たしている。将来的に生徒の自己実現の基礎となる経験であり、学習活動の活性化が見られる。
- ③ 地域行事への参加、ボランティア活動、自治公民館や保育園との合同避難訓練、幼小との交流会、ものづくり体験など、地域連携と地域貢献に力を入れた活動は、地元の学校理解と生徒の自信につながっている。
- ④ 教科・進路指導部を中心に3年間を見通したキャリア教育がなされている。毎年就職内定率100%を継続し、特に地元企業への就職が多く、地元産業界に貢献する人材の育成がなされている。
- ⑤ 本校独自の教育活動が、年間を通じてテレビや新聞などの報道機関に取り上げられ、生徒・保護者のみならず、多くの県民の関心と呼び、学校理解と生徒の自尊感情の育成につながっている。
- ⑥ 海洋実習による国際交流、介護福祉士資格取得5年連続100%、手話パフォーマンス甲子園出場など学校独自の取組は、教職員の生徒への綿密な指導と適宜の動機付けにより、高い目標に挑戦する生徒の育成がなされている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学習指導について、学校として目指す「わかる喜び」「主体的に取り組む姿勢」のある授業への教職員の共通理解が求められる。授業改善に対する研究推進組織を分掌に位置付け、具体的、計画的、組織的な動きにつなげる工夫を望む。
- ② 教職員の意見の把握と、意欲付けなど学校組織としての体制の充実が求められる。どのような教育理念が必要かを加味した学校方針を全教職員に浸透させる工夫と場の設定を望む。
- ③ 本年度の重点目標、自己評価における現状、目標、方策について組織的な検討及び見直しを望む。教職員の学校経営への参加意識を高め、教育の効率化を図るために見直しの充実を望む。
- ④ 人権教育、性教育に関する指導などの年間計画において、評価項目や評価方法の設定が必要である。年間指導計画の重要性を認識した見直しを望む。
- ⑤ 無遅刻、挨拶励行、時間厳守等の教育的意義を理解し、生徒指導がなされているが、自ら生活向上や学習環境改善を図る主体的な意欲をもつ生徒の育成につながることを期待する。